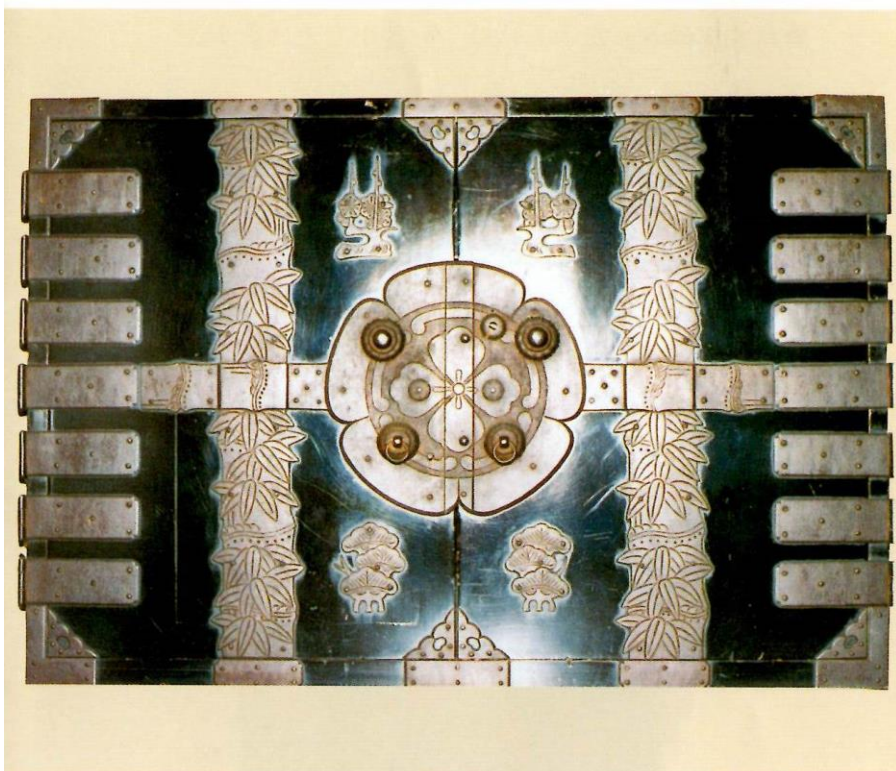


第51回

# 酒田 和ダンス展

2階 収蔵品展



衣裳ダンス

開催期間 1988年7月28日(木)～10月2日(日)

開館時間 9時30分～16時30分

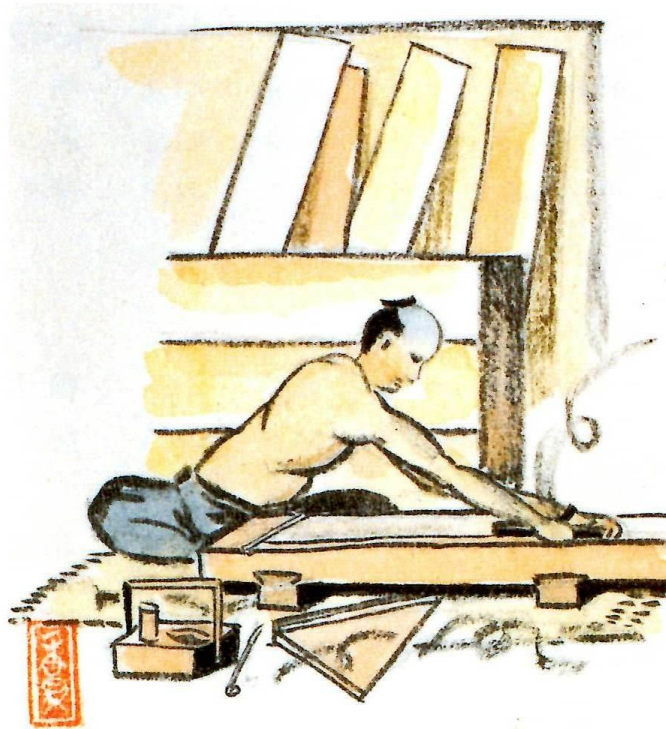
休館日 月曜日・祝日

入館料 大人100円・児童生徒50円

## 酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234) 24-6544

## 酒田和タンスと職人



### タンスということば

わが国で箆笥（たんす）ということばが用いられるようになったのは戦国時代のころからであり、初めは小形の持ち運び用の箱をさして、箆笥または擔子（たんし）と呼んだ。江戸時代になって本来の意味とはちがう大形の引出しものを呼ぶようになった。

### タンスの起り

櫃（ひつ）、長持（ながもち）に代り、タンスという収容家具があらわれたのは江戸初期で、近世になるまでは一般の人々の生活には収納を必要とするほどモノを持っていなかった。タンスが広く普及したのは明治中期から大正期にわたってである。

### タンスの種類

タンスの種類は多種多様で、時代により、地方により、また用途によって、その呼び方もそれぞれである。衣裳タンスといっても、着物タンス・羽織タンス・帯タンス・足袋タンスなどさまざまで、中には同じ寸法、同じ材質でも使用目的により着物タンスにも羽織タンスにもなることもある。

## 船 タ ン ス

酒田タンスの代表的なものに船タンスがある。船タンスという呼称は民芸の名付け親の柳宗悦が呼び出したものであり、それ以前の酒田では懸硯（かけすずり）であり、帳面ダンス（帳ダンスともよぶ）とあって、手提金庫と硯箱を兼ねたもの、あるいは商人にとっては重要書類であった帳簿の保管具として造られ、災害のときにはいち早く持出せるように小型としたものであり、あながち船用として造ったというより、その小型性が船用に合致して用いられたのであろう。

## 指 物 師 (差物師)

指物師は大工から分化した家具類を造る職人をいい、「さす」は物指ものさしを使う意味で、曲尺（かねじゃく）などを用いてフタや引出しのある手のこんだ細工をするところから呼ばれた。古い本に「指物師、桐檜杉等をもって万の箱よろずをつくるなり」とあるように、酒田で指物屋を箱屋とよんでいたのも肯ずける。

## 酒田の指物師

酒田の指物師のすがたは伝える文献が乏しく、作品も相次ぐ災禍で失ったものかほとんどなく、その態様はうかがえない。わずかに元禄9年（1696）酒田図に指物師の存在があり、このころすでに家具が造られていたと知られる。

日本海々運全盛期の酒田は、先進地のあらゆる情報がいち早くもたらされる条件が整い、経済力もまた旺盛だったことから、生活文化の水準も高かった。家具もそれなりの優れた作品が需められ、職人の腕も磨かれそれぞれ得意分野の名人がでたといえよう。

